

住まい応援プロジェクトでは、板橋区が家賃等の助成を通じて経済面をサポートし、児童養護の職員が生活・精神面のサポートに当たります。このたび、職員の方々から、サポートに向けた思いを寄せていただきました。



「新型コロナウイルスの影響で大変な中でも、卒園者達は皆、仕事や学業、アルバイトに生活と頑張っております。『住まい応援プロジェクト』のご支援を受けている卒園者は、皆様からのメッセージを拝読し、ほんなにも温かく応援していただいていると感動し、決意を新たにしています。卒園したらずぐに一人前になるわけではなく、このようにたくさんの方々の支援に育まれて、少しずつ成長していきます。社会に出たこれからは本番。職員も皆様と一緒に『One Team』で支援を続けていきたいと思っております。」

「施設に入所することは、『安心で安全な生活を保障することと同時に、一回限りの『人と人との出会い』の機会でもあります。施設生活を通して体験した『営み』は、各々がこれから創っていく未来の営みの基盤となります。認められ、大切にされた施設での体験は、幻想でもかりそめでもない『確かなもの』だと考えています。その確かさは、将来子ども達が、生きていく中で困難と向き合った時に、乗り越えるための支えとなるはず。そんな思いを胸に、子ども達が必要な時に私達の手をつかんでくれるよう、いつまでも手を差し伸べ続けていくことが必要だと感じながら、退所した子ども達と向き合っています。」

令和2(2020)年度に、当プロジェクトにご賛同・ご寄付を賜りました皆さまにおかれましては、誠にありがとうございます。また、

おかげさまで、令和3(2021)年度以降も当面の間、卒園者のサポートを継続できる見込みとなりました。

このため、令和3(2021)年度はクラウドファンディング(寄付金の募集)を休止しますが、板橋区ではこれまで皆さまからいただいたご寄付をもとに、引き続き卒園者のサポートを行っています。

【児童養護施設卒園者住まい応援プロジェクトページ】
検索サイトにて「児童養護施設卒園者住まい応援プロジェクト」で検索又は下記二次元コードを読み取り、アクセスしてください。



児童養護施設卒園者住まい応援プロジェクト

検索

お問合せ

このプロジェクトに関すること
板橋区子ども家庭部子ども政策課
TEL 03-3579-2454

寄付のお申込み・お支払いに関すること
板橋区区民文化部地域振興課
TEL 03-3579-2161



児童養護施設卒園者の進学を寄付で支援！

児童養護施設卒園者 住まい応援プロジェクト

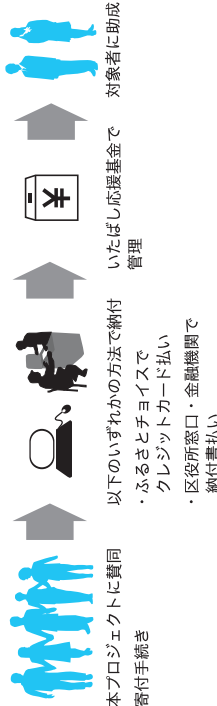


プロジェクトの趣旨及び支援の状況

学生生活を送れる生活環境を整え、すべての子どもたちに夢と希望を

板橋区では、「児童養護施設卒園者住まい応援プロジェクト」と銘打ち、区内児童養護施設の卒園者のうち、大学等に在学する者を対象に、生活費のうち大きな割合を占める住まいに掛かる費用（家賃等）の一部を助成することで、子どもたちが学生生活を送ることができる環境を整え、引き続き夢を追い続けることができる仕組みを導入することとし、皆さまには、この助成を行うための資金について支援をお願いしてきました。

プロジェクトのイメージ



たくさんの方からのご支援をいただき ありがとうございます

プロジェクト初年度である令和元（2019）年度は、3名に対する助成を開始することができました（うち1名は無事大学等を卒業）。2年目となる令和2（2020）年度は、これに加えて、新たに4名に対する助成を開始し、支援を実施しています。令和2（2020）年度までの助成に必要な経費を超えて集まった寄付額は、引き続き令和3（2021）年度以降の支援に活用されます。

<寄付及び助成実績>

寄付金額	6,301,532 円 (191 件) (令和2年1月1日～令和2年12月31日)
家賃等助成額	1,446,000 円 (6名に助成) [*] (令和2年4月1日～令和3年3月31日)

^{*}月当たり3万円を上限に、家賃等相当額の1/2を助成

卒園者の声

令和2（2020）年度より新たにサポートを開始した4名の卒園者から、ご支援いただいた皆さまへのお礼のことばです。

児童養護施設の卒園者に支援していただき、ありがとうございます。私は現在、短期大学に通いながら、簿記の資格を取得する為に勉強をしています。そして日々アルバイトと学業の両立に励んでいます。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、少し不安はありましたが、この家賃助成のおかげで本当に助かりました。

家賃助成本来にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の影響により、大学やアルバイトなど今までの環境とはがらりと変わった形となり、大変な時期ですが、家賃助成がとても負担の軽減に繋がっています。私は今、大学の授業、インターン、アルバイトと忙しい毎日をお過ごしています。「体育教師になる」という夢を叶えるための勉強の時間の確保と、アルバイトの時間との兼ね合いが難しいところですが、家賃助成の力もお借りして、精一杯勉強に励みたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、入学式は無くなりましたが、5月からはオンライン授業が始まり、6月からは登校し、対面での授業が始まりました。

例年通りの授業ができない状況の中、まだまだ知らないことだらけの毎日で学ぶことが多いですが、皆様の支援のおかげで金銭面に困ることなく勉強に集中できる環境があることに感謝しています。

この度は、家賃助成を行っていただきありがとうございます。私は専門学校に通い、将来の夢に向けて学びを深めています。新型コロナウイルス感染症の影響により、私自身アルバイト先を見つけることが困難であったり、学校の運営が例年と変わるなど、様々なことが思うようにいかないことが多々ある状態の中、家賃助成をしていただけることに非常に感謝しています。今後もしっかりと皆さんの苦労があるかと思いますが、学校とアルバイトの両立を図っていききたいと思います。

情報リテラシー向上で若者の自立を支援

児童養護施設では、原則として、高校卒業とともに施設を出て、自立しなければなりません。しかし、卒園者は、自炊の仕方、クレジットカードの使い方、電気・ガス・水道の契約の仕方などの自活能力が身に付いていないことも多く、また、これらの方法を保護者に聞くこともままなりません。

このたび、住まい応援プロジェクトに賛同した東京板橋セントラルロータリークラブが、身近な悩みを自分で調べてもらい、解決に役立ててもらおうと、児童養護施設卒園者に対し、タブレット端末を寄贈しました。あわせて、情報リテラシーの向上のため、卒園者に対し、検索エンジンの使い方、公的機関への相談の仕方などのレクチャーが実施されました。

児童養護の園長からは、「住まい応援プロジェクトを通じて児童養護に対する理解が進んでおり、ありがたい」との感謝のこたえがありました。板橋区では、地域ぐるみで若者の自立を支援する取組みが少しずつ進んでいます。



東京板橋セントラルロータリークラブ会長（左）と児童養護施設園長